

令和5年度特定外来生物（キョン）防除対策検討委員会（第1回）
議事概要

1. 開催日時 令和5年7月27日（木）10:00～12:00

2. 開催形式 WEBによるオンライン会議

3. 議事

- 1) 令和4年度の事業報告について
- 2) 令和5年度の事業計画について

4. 出席者

■検討委員

織 朱實	上智大学大学院地球環境学研究科 教授
加瀬 ちひろ	麻布大学獣医学部 講師
小池 伸介	東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院 教授（欠席）
羽澄 俊裕	環境省認定 鳥獣保護管理プランナー

■臨時委員

石井 信夫	東京女子大学 名誉教授
佐々木 洋平	一般社団法人大日本猟友会 代表理事会長
深澤 圭太	国立研究開発法人国立環境研究所 主任研究員

■関係機関

中田 太	大島町産業課 課長
鳥井 朋恵	関東地方環境事務所伊豆諸島管理官事務所 国立公園管理官

■東京都

岡田 拓也	東京都総務局大島支庁土木課 課長
座間 大介	東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 課長代理
石田 安識	東京都総務局大島支庁土木課大島公園事務所 主任
中越 淳夫	東京都総務局大島支庁産業課 課長
下沖 嘉孝	東京都総務局大島支庁産業課 課長代理
笹原 夏子	東京都総務局大島支庁産業課 林務担当 主任

(事務局)

佐藤 基以	東京都環境局自然環境部 野生生物担当課長
照沼 愛	東京都環境局自然環境部計画課 課長代理（野生生物担当）
中村 真悟	東京都環境局自然環境部計画課 野生生物担当 主事

■事務局

一般財団法人自然環境研究センター

5. 配付資料

資料 1-1：令和 4 年度キョン防除事業報告

資料 1-2：令和 4 年度キョン捕獲実績

資料 1-3：生息状況モニタリングの結果

資料 1-4：植生モニタリングの結果

資料 2：令和 5 年度防除事業実施計画（案）

6. 議事内容

(1) 令和 4 年度の事業報告

1) 令和 4 年度の防除事業報告

- 捕獲カバー率は同じカバー率でも何度も入る場所と 1 回だけの場所があるということか。
→（事務局）そのとおりである。

2) 令和 4 年度の捕獲実績

- 8 月と 12 月の捕獲数が少ない理由は何か。
→（事務局）8 月は熱中症のリスクもあり作業が控えめになっている。12 月は年末にわなや張り網の稼働を止めるためである。

3) 生息状況モニタリング

- 市街地での推定生息個体数はわなの CPUE も見て減っていると判断できるか。
→（事務局）箱わなの CPUE は上昇しており、場所によっては増加している可能性はある。
→強い捕獲圧がかかっているわけではないのに減少傾向にある。また、捕獲数がオスに偏っていることをモデル上考慮しておらず、市街地を正しく推定できていない可能性がある。結果については慎重に見ていった方がよい。
→北部で生息密度が高く、南部で低く、まとめると市街地の密度が減っているか。
→（事務局）細かく分析できていない。
- 地域ごとの密度の濃淡に基づいて捕獲を重点的に行う地域を考えるとといった戦略を考えているか。
→（事務局）今は市街地での効果的な捕獲方法が確立できていないので、既存の方法で市街地全域をカバーする方向で進めている。
- 捕獲ブロックごとに生息数の傾向を出し、捕獲が効いているか分析し、次にどこで捕獲をするのが良いかといった分析を行い、今後の戦略に生かすべき。
→捕獲が佳境に入ってくるので緻密な戦略が大事になる。

4) 植生モニタリング

- ヒアリングの結果をふまえて保護柵設置の具体的な動きはあるか。
→根絶まで長い期間がかかる。キョンを根絶しても希少種が無くなったということでは困る。島という隔離された重要な空間なので希少種の保護を最優先にしなければならない。令和 6 年度に向けて設置場所や規模といった具体的な意思表示が欲しい。

- （事務局（東京都））そのような方向で考えたい。
- 捕獲用の柵を設置することで植生保護柵の設置が遅れる懸念はあるか。
- （事務局（東京都））その点も含めて考える。
- 今年度中には方向性を定めてほしい。
- シダ類については、キョンが食べているのか踏圧によるものか、どのような関係か。
 - （事務局）食痕が多いので、食べられることによると考えられる。
 - やはり影響は強く、それを利用する生物にも影響が出ていると感じた。
- 大島の希少種のいくつかが絶滅する可能性、あるいはすでに絶滅した可能性があることが分かってきた。大変なことが起きているということをきちんと認識して強調すべき。キョンを根絶させなければならないという考えを醸成する根拠になるので、島民向けのチラシに結果を活用すべき。
 - 島民はキョンを駆除する必要性を理解してもらうために希少種への影響を強くアピールすることは重要。また、希少種が無くなることで外来植物が増えることを監視してほしい。柵等できる予防策はとった方がよい。
 - 自然環境が単純化することで観光資源的な魅力がなくなるという視点でもよいが、チラシに盛り込めるよう工夫してほしい。
- 影響をアピールするには長期的な変化を示すと説得力がある。過去から同じプロットで種の消長を調べているデータはあるか。
 - （事務局（自然研））令和元年度以降は調査区を固定しているので種数を確認できるが、キョンによる影響は不明瞭である。調査区を固定する前にすでに無くなった種がある可能性がある。
 - 今後同じ場所で調査を続けていくのが良いだろう。柵を立てた前後とコントロール区のデータで柵の効果を評価できると思う。
- 希少植物が生育している場所については東京都に情報提供しており、柵の設置も対応してもらっているので、引き続き連携していきたい。

（2）令和5年度の事業計画について

- VAST 法の色がマイルドで危機感を感じない。色合いを変えたほうが、見た方への危機感が伝わり、意識づけになる。
- 農作物被害の量的な変化、被害対策の取組状況を記載した方がよい。富？栄養なものを食べて早熟したり繁殖が促進されたりする可能性がある。
- 捕獲試験の具体的な内容はこれから検討するのか。
 - （事務局）市街地に関しては検討中である。火口域では箱わな、足くくりわな、囲いわなを試験している。急傾斜地では足くくりわなを試験する予定である。
 - 時間が足りなくなるので3年程度の見通しを立てた方がよい。
- キョンの捕獲による島民にとってのメリットが分かりにくい。普及啓発の記述を厚くしてほしい。
 - 生物多様性への影響について、わかりやすく書く必要がある。
- 市街地での捕獲に関するネコの問題について、住民への周知や理解促進はどのような状況か。
 - （事務局（東京都））説明会等は行っていないが、機会があれば個別に説明し理解を得るよう

にしている。

→放し飼いに対してはどうか。

→（事務局（東京都））変えていくことが難しい状況である。

→ネコがかかるからこの捕獲方法は使えないということになると、おそらく根絶はできない。

丁寧に説明し、理解を得ていく必要がある。チラシにネコの話題を入れるとよい。

- 希少植物の分布状況を地図化し、優先順位の検討を行った方がよい。1 個体群しかなければいつ絶滅してもおかしくない。

→公表はできないとは思いますが、戦略を描くにあたってまとめたものを次回の会議で示してほしい。

→（事務局（東京都））令和 6 年度に向けて考えたい。

- 資料 1 に CPUE の図が掲載されていると内容の議論ができる。
- VAST 法の図と糞粒密度や撮影頻度の結果が対応しない。時空間の平滑化とはどのようなことか。

→（事務局）糞粒密度と撮影頻度は地点別にみると大分異なる結果となっている場合もある。これに CPUE も加えて値を均したように算出される。

→例えば 10 年間のデータを考慮しているということか。

→（事務局）長いもので 7 年分のデータを使用している。

→示されているのは単年度分だが、各年のメッシュごとの指標が出る。暴れたり年ごとにばらついたりとはほかの指標と異なる挙動を示す指標は平均的な密度からの乖離が大きいと判断されて重みがる。これは個体数マップにすることもでき、時間変化も書ける。

→島の大半を占める薄緑とクリーム色ではギャップを感じない。

→上のクラスのレンジを広くするなど工夫できる。

- 商用あるいはペットフードに利活用することも考えてはどうか。それにより島民の理解も得られるのではないか。

→（事務局（東京都））根絶を目指しているので利活用の事業化は考えていない。キョンは捕獲した時点で都の財産になるので、それを譲渡することはできないということもある。

→大島町の意欲によるか。

→（事務局（東京都））地元の中には利活用すべきではないかとの意見があるという話は聞いている。

- VAST 法の図が毎年度示されるということによいか。捕獲方法ごとの CPUE の変化を地域別、捕獲ブロックごとに作れば、それぞれの方法の特徴や有効性が分かるのではないか。雌雄別の CPUE も作成するとよい。組織銃器捕獲が密度を下げるのに最も有効なので、如何に拡大するかを考えていった方がよい。

→（事務局）VAST 法の図を今後も毎年作成して変化を評価できるようにしたい。CPUE については地域ごとに分析したい。

- 令和 5 年度事業実施計画案に関しては了解した。
- キョンを根絶する理由は生態系の保全や大島の魅力を守ることであり、目的を見失わないことが大事だと感じた。
- 利活用について、利害関係者が絡むと資源として島の名物として利用できるのではないかと

いう意見が出てくるのが怖いと感じている。そのような意見をコントロールすることは難しく、今はそのような余裕はない。

→資源利用という話になると根絶するなという話に曲解されていく可能性があるので、慎重になる必要がある。

- 農業者は市街地のキョンは増えていると感じているので、個体数推定結果には違和感がある。また、以前は人の姿が見えるとすぐに逃げていたのが、最近は逃げなくなり平気な顔をしてその辺をうろうろしていると多くの方が話をしている。

→捕獲を強化していきたいが、それによりネコがかかるといった情報は入っているか。

→ネコの錯誤捕獲は今後は生じてくると思われるので、周知し丁寧に説明はしていかなければならず、協力していきたい。

- キョンの影響により希少植物が減ったり、生物多様性に影響が出ることを深刻な問題としてとらえている。例えばサクユリの被害は島民も知っており、ジオパーク推進委員会でも周知しているので、引き続き協力していきたい。